



あたしひみこ

私の故郷の北海道釧路地方では、冬場の暖房施設は充実していますが、家にも学校にも公共施設にもエアコンはありません。真夏でも30度を超える日がないからなのですが、それがこの夏、異常な暑さに見舞われています。近くの帯広や北見ではフェーン現象の影響で体温をはるかに上回る39度にもなっています。釧路の友人はLINEで「もはや災害級」と嘆いていました。目の前のことだけでなく、気候変動のような長期的に国全体、地球全体で考えなければならないことにも目を向けるべきではないでしょうか。

さて他地域に比べればまだまし暑さの千葉ですが、みんなが一斉に揃う夏期講習では教室のエアコンはフル稼働。中3は毎日5科目の復習から始めていますが、歴史の授業でみんなが断トツに覚えている人物が卑弥呼とザビエル。それだけインパクトがあるのでしよう。その卑弥呼が実在したかどうかは様々な議論のあるところですが、自分がなり切ってみてはどうかという提案です。実はビジネスマナーのコンサルタントが周りの人々に良い印象を与えるのには、6つのことが大切だとアドバイスしています。あいさつ(挨拶)・たいど(態度)・しぐさ(仕草)・ひょうじょう(表情)・みだしなみ(身だしなみ)・ことばづかい(言葉遣い)…「あたし卑弥呼」と覚えておきましょうということです。その中でも特に挨拶の役割は「あなたの存在を認識していますよ」ということを伝えるための言葉。この塾生はみんないつも元気な声で挨拶してくれます。これからもずっと続けていってほしいことです。そして小から習う敬語についても使いこなせるにこしたことはありません。外国語には日本のような敬語がなくていいなという人もいますが、それぞれの国にはやはりそれぞれややこしい言葉のルールがあるようです。相手の行為への尊敬語と、自分や家族の行為についての謙譲語という2種類にはっきり分けられる点で日本の敬語はわかりやすいと思います。

ところで最近よく聞く「論破」という言葉はどうも好きになれません。話す相手への敬意がなければ会話は成り立たないはずですよ。